

中学保健体育科 ニュース

大修館書店

NEWS FILE ①

.....文部科学省2012年3月30日(金)

文部科学省が スポーツ基本計画を策定

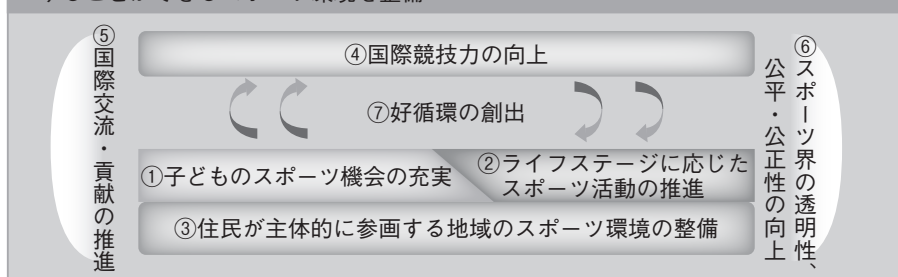
文部科学省は、平成24年3月、スポーツ基本法の理念を具体化し、今後の我が国のスポーツ施策の具体的な指針となる、スポーツ基本計画を策定しました。

今回策定された基本計画では、今後5年間に取り組むべき施策として、①学校と地域における子どものスポーツ機会の充実、②若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進、③住民が主体的に

参画する地域のスポーツ環境の整備、④国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備、⑤オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進、⑥ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上、⑦スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進、などをあげています。

○今後10年間の基本方針と現状と課題を踏まえた5年間の計画

年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができるスポーツ環境を整備



■新学習指導要領全面实施

CONTENTS

安全で効果的な柔道の授業づくり 本村清人（東京女子体育大学）2

面白くてためになる体育理論の授業づくり 大越正大（東海大学）6

安全で効果的な 柔道の授業づくり

本村清人
(東京女子体育大学)

中学校では、この平成24年度から新しい学習指導要領が全面实施となった。しかし、武道、特に柔道については、根拠の乏しいあいまいな事故件数やその指導の在り方等についてマスコミ等が過剰ともいえる報道に走ったことは周知の通りである。これに対し、文部科学省では、「体育活動中の事故防止に関する調査研究協力者会議」を設置し対応していく中、去る平成24年3月9日付で、文部科学省スポーツ・青少年局長名で、「新しい学習指導要領の実施に伴う武道の授業の安全かつ円滑な実施について（依頼）」と「武道必修化に伴う柔道の安全管理の徹底について（依頼）」が発出され、同時に「柔道の授業の安全な実施に向けて」も添付され、信頼すべき事故統計のもと、柔道の安全な実施に関する内容を示したことから一定の落ち着きを見ている状況と言える。

したがって、依頼文書等の詳しい内容については、文部科学省のホームページ等でご覧いただくとして、ここでは、「柔道の授業の安全な実施に向けて」（平成24年3月文部科学省スポーツ・青少年局）を踏まえ柔道の安全かつ効果的な授業づくりの視点や事例を提供していく。

1 武道の特性

授業づくりで最も重要なことは、安全に配慮することはもとより、その運動の特性、つまり、その運動固有の楽しさ・喜び、良さは何かということである。次の2点で抑える。

①攻防する技（得意技）を習得した「達成の喜び」とその得意技を生かして勝敗を競い合う「競争の面白さ」とを味わうことができる運動である。これはスポーツとしての武道の良さと考えることができる。
②我が国固有の文化として、相手を尊重し、礼法など伝統的な行動の仕方が重視される運動である。これは伝統・文化としての武道の良さと考えることができる。

2 柔道の授業における 安全管理のための6つのポイント

「柔道の授業の安全な実施に向けて」（平成24年3月文部科学省スポーツ・青少年局）では、「柔道の授業における安全管理のための6つのポイント」を以下のようにあげ、事故防止を図ることを詳しく述べているから参照してほしい。

- (1) 練習環境の事前の安全確認
- (2) 事故が発生した場合への事前の備え
- (3) 外部指導者の協力と指導者間での意思疎通・指導方針の確認
- (4) 指導計画の立て方
①3年間を見通した指導計画を！、②あくまでも生徒の学習段階や個人差を踏まえた無理のない段階的な指導を！
- (5) 安全な柔道指導を行う上での具体的な留意点
①生徒の体調等に注意！、②多くの生徒が「初心者」であることを踏まえた段階的な指導を！、③「頭を打たない・打たせない」ための「受け身」の練習をしっかりと！、④固め技では抑え技のみであり、絞め技や関節技は指導しない！、⑤しっかりと受け身を身に付けさせたいうえで、生徒の状況にあった投げ技の指導を！
- (6) 万一の場合の対応
①事故発生時の応急手当、②打撲、捻挫、骨折、脱臼などへの対処、③頸部負傷への対処、④頭部打撲への対処

3 安全に留意した指導計画の作成

前述の6つのポイントは項目を見るだけで安全上何が必要なことなのかが分かる。なぜならば、教員（指導者）は、体育・スポーツ活動には危険が内在することを承知しているからこそ、その危険を予測し、その危険を回避することが教員（指導者）の義務であり、その責務をしっかりと果たしてきたと考えるからである。それでも事故は起こっている。常に

安全配慮が求められることを改めて確認する。だからといって、危険だから一律に禁止することでは、体育・スポーツの、柔道の魅力を味わうことができないばかりでなく、生徒の安全に留意する態度の育成はできない。生徒自身も危険を予測し、回避する能力を身に付けることが必要である。

①3年間を見通した年間計画の作成

武道（柔道）の特性、つまり、その固有の楽しさ・喜びを味わい、安全にしかも武道の良さを体感するためには、3年間を見通した年間計画の作成が重要となる。例えば、武道を3年間必修（各学年12単位時間程度）として位置付けると時間的、心理的ゆとりの中で、生徒は安全かつ効果的に武道の良さを味わうことができる。時間的なゆとりのない中で学習内容の高度化を図っては安全の確保はできないことを肝に銘ずるべきである。

②単元計画の作成

年間計画に基づく単元計画の作成にあたっては、例えば、1年次では、時間的なゆとりの中で柔道の

基本動作といくつかの投げ技と抑え技を確実に身に付ける。我が国の運動文化である武道、柔道の技を身に付ける「達成の喜び」を味わうことができるようにする。2年次では、それらの技の習熟を図りつつ新たな技を確実に身に付ける。確実に身に付けることがすなわち安全の確保につながる。そして、確実に身に付けた技に限定した自由練習やごく簡単な試合を取扱い「競争の面白さ」を味わうことができるようにする。そして3年次では、得意技を生かした攻防を積極的に味わうとともに既習の技を生かした簡単な試合を計画する。その際、禁じ技をかけない、しっかりした礼法と相手を尊重する態度で試合に臨む、技をかけたとき自己の体勢が崩れたら自ら受け身をとる、無理な防御をしないで潔く受け身をとるなど安全上の留意点を確認することが重要である。このように、安全に十分配慮したうえで柔道の良さを味わうことができるようにすることが大切である。

表1 柔道の学習のねらい、内容、道筋

	ステージ1（中学校1年生）	ステージ2（中学校2年生）	ステージ3（中学校3年生）
ねらい	相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開する。		相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技を用いて相手を崩し、仕掛けたり応じたりする攻防を展開する。
技能	1. 固め技（けさ固め、横四方固め、上四方固め） 2. 基本動作（姿勢と組み方、進退動作、崩しと体さばき） 3. 受け身（横受け身、後ろ受け身、前回り受け身） 4. 投げ技（大腰、体落とし）	1. 投げ技（大腰、体落とし、膝車、支え釣り込み足、大外刈り、小内刈り） 2. 固め技の防御（抑え込まれた状態から相手を体側や頭方向に返す。）	1. 投げ技（大内刈り、釣り込み腰、背負い投げ、払い腰） 2. 技の連絡 ① 2つの技を同じ方向へ（大内刈り→大外刈り、釣り込み腰→払い腰） ② 2つの技を違う方向へ（釣り込み腰→大内刈り、大内刈り→背負い投げ） ③ 固め技の連絡 ④ 投げ技から固め技への連絡
態度	積極的に取り組もうとする 公正・協力、責任・参画、健康・安全		自主的に取り組もうとする
知識思考判断	歴史や特性、礼法、伝統的な考え方、技の名称、「抑え込み」の条件	歴史や特性、礼法、伝統的な考え方、技の名称、ルールや審判法、関連して高まる体力	歴史や特性、礼法、伝統的な考え方、技の名称、見取り稽古の仕方、体力の高め方、ルールや審判法
	課題に応じた運動の取り組み方		自己の課題に応じた運動の取り組み方
単元の学習の道筋	1. オリエンテーション 2. 礼法、柔道衣の取り扱い方 3. 安全の確認 4. 固め技、「抑え込み」の条件とポイント、固め技の攻防 5. 基本動作、そのポイント 6. 受け身、投げ技と基本動作との関連を図った練習法 7. 投げ技、技の系統、受け身を含む基本動作との関連を図った練習法	1. オリエンテーション 2. 1年次で身に付けた知識と技能の確認 3. 安全の確認 4. 投げ技、技の系統、かかり練習と約束練習に重点、習熟の程度に応じて自由練習 5. 固め技の防御、固め技の攻防 6. 自由練習の延長としてごく簡単な試合	1. オリエンテーション 2. 2年次で身に付けた知識と技能の確認 3. 安全の確認 4. 投げ技、技の系統、かかり練習、約束練習、自由練習 5. 投げ技の連絡、約束練習に重点、自由練習 6. 固め技の連絡、固め技の攻防 7. 習熟の程度に応じて投げ技から固め技への連絡 8. 簡単な試合

4 柔道の学習のねらい、内容、道筋（例）

前述の指導計画作成の考え方に基づいて、柔道の学習のねらい、教えるべき内容と練習法、学習の道筋について表1に整理したものを例として示す。

5 「地域連携指導実践校」の事例に学ぶ

これまで文部科学省は、中学校武道必修化に向けて「地域連携指導実践校」を指定するとともに「武道指導推進協議会」に対する予算措置をするなどの施策を実施してきた。筆者もこのいくつかに関係してきたが、そのうちの佐賀県教育委員会・嬉野市立嬉野中学校の実践事例を紹介する。

①この事例の特色

- ア. 武道を3年間継続して年間計画に位置づけ、各学年12単位時間を配当したこと。
- イ. 地域の指導者との連携に加えて3人態勢（1年次）でのTTを行い極めて効果的かつ安全な授業展開をしたこと。
- ウ. 1年次で、抑え技を重点的に取り扱い、対人で攻防するという武道の良さを早い段階から味わえるようにし、動機づけを高めたこと。
- エ. 技別によるグループ学習をするなど学習内容により授業展開の仕方を変え、極めて効果的かつ安全な授業展開をしたこと。

②事例

事例を表2、3に示す。

表2 第1学年 武道（柔道の学習指導案）

単元の目標

- (1) 柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。
- (2) 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
学習活動に即した評価規準	①進んで取り組もうとしている。 ②基本動作や基本となる技ができるように取り組もうとしている。 ③分担した役割を果たし、相手を尊重し、できる・できないにかかわらず敬意をはらおうとしている。 ④健康・安全に留意している。	①運動の行い方や技を身につけるポイントを見つけている。 ②基本動作らしく、基本の技らしくなる方法を見つけている。 ③既習の技をつかって練習している。 ④課題に応じた練習方法を見つけている。	①基本動作や基本となる技を正確にできる。 ②技に応じた体さばきや崩し、受け身ができる。 ③相手の動きに応じて技をかけることができる。 ④柔道衣の着用とたたみ方ができる。	①基本動作や基本となる技の名称や行い方を言ったり書き出したりしている。 ②柔道の特性や成り立ち、礼法の意義について言ったり書き出したりしている。 ③どのような行為が危険であるか学習した具体例を挙げている。

単元の計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
単元計画	・資料の確認 ・学習の進め方 ・柔道衣の扱い方	・準備（畳、柔道衣） ・受け身（後ろ、横、前回り） ・既習技を使つての練習（かかり練習、約束練習、乱取り） ・準備運動（ストレッチ、補強） ・めあての確認（ノートへの記入） ・礼法										
		歴史 特性 礼法 受取		・基本動作 姿勢 組み方 進退動作	・基本動作 受け身 崩し 体さばき 基本となる技 体落とし 大腰 大外刈り		・基本動作 体さばきを用いて受け身 既習技を正確に身に付ける 体落とし・大腰（まわし系） 大外刈り（刈り技系） ・相手の動きに応じた動作から 投げ技を身に付ける 前・後ろさばき→体落としなど 前・後ろ回りさばき→大腰					・乱取りで 1本とれる技を身に付ける ・正確な受け身
		・基本となる技 けさ固め 横四方固め 上四方固め										
			・乱取り ・自己評価 ・課題の確認 ・次時の確認 ・後片付け									

(2) 展開

地域の武道指導者を含む3人体制のTTにより、安全で効果的な指導の充実を図る。

学習内容 学習活動	指導上の留意点・支援			評価
	担当教師（Ｔ１）	担当講師（Ｔ２）	地域の指導者（Ｔ３）	
はじめ 1 準備運動 ・ストレッチ ・補強運動 2 受け身 ・後ろ、横、前回り 3 本時の活動の確認 4 寝技での乱取り 5 集合・あいさつ	○正しくできているか確認し、指導する。 ・背中・側面が畳につく瞬間にたたけているか確認する。 ・あごを引き、頭を上げているか確認する。 ○自分にあつためあてをもっているか確認する。 ○積極的に取り組んでいるか確認し、指導・支援する。 ・技のポイントをつかんでいるか確認する。			
なか 6 既習技の練習 ・体落とし ・大腰 ・大外刈り 7 技の分類を決めた練習をする 8 乱取りをする	○自分の課題にあった練習ができるように指導する。 ・引き手とつり手の使い方が正しいか。 ・体さばきや崩しができているか。 ・投げ終わった際に両手でひきあげているか。 ○足技を指導する。 ○相手の動作に応じられるように技のポイントを指導する。 ・教えた動作や正しい動作をゆっくり示す。 ・つまずきを具体的な動作で示す。 ・体さばきと崩しができているか確認する。 ○あごを引き、腕全体で受け身をとるように指導する。 ○前さばきができるように指導する。 ・しっかり相手の胸にあてているか。	○腰技を指導する。 ○畳につく瞬間、片方の腕で強くたたいて受け身をとるように指導する。 ○前・後ろ回りさばきができるように指導する。 ・しっかりと自分の腰に乗せているか。	○手技を指導する。 ○投げ技の練習時にも、受け身のポイントを再確認する。 ○畳につく瞬間、片方の腕で強くたたいて受け身をとるように指導する。 ○前・後ろ回りさばきができるように指導する。 ・しっかりと相手を引き出しているか。	関心・意欲・態度 ④ 技能 ③
まとめ 9 活動の反省をする ・次時の課題の確認 ・後片付け	○本時のめあてを確認させ、まとめさせる。 ・できていること、できていないことを明らかにさせる。		○本時の学習の気づきを伝えてもらう。 ・何が良くて何が良くないか。	

投げ技の学習における段階的な指導（より安全面に配慮）
【投げ技らしき技】→【投げ技】
 ※投げ技らしき技＝引き手・つり手・崩しができていることを確認し、投げるのではなくゴロンと転がす。

本村清人監修，全面改訂 図解中学体育，廣済堂あかつき，
2012年

面白くてためになる 体育理論の授業づくり

大越正大
(東海大学)

1 体育理論をめぐる現状

中学校で新学習指導要領が完全実施となる直前の昨年度は「中学校武道必修化」に話題が集中した感があります。体育理論は柔道と違って怪我は起きませんが、元々中高全ての学年で必修である領域の存在を忘れずにいたいものです。

近年、国際的な学力到達度調査（PISA）の結果などから子ども達の学力低下が指摘され、学校教育における説明（教育）責任が問われる中、学習指導要領の保健体育科においては、内容の明確化・体系化を中心とした改訂が行われました。今回の改訂にかかわる平成17年の中央教育審議会答申で「21世紀は知識基盤社会である」と指摘され、学校教育における知識習得が重要視される中、保健体育科の体育分野（以下、体育）では、体育理論の充実が期待されます。また、多くの体育科教育関係者が持っている、体育の「選択教科化」や「単位時間数減」、「保健体育科教員定数減」といった、教科衰退・存続の危機感を考えると、今回の学習指導要領実施の期間は、教科としての存在意義が問われる大切な期間になります。こうしたことから、必修領域であり、体育の中で唯一座学で知識を扱う体育理論は、体育の学習価値を主張する重要な領域となるのです。

教育現場では「体育の実技授業（運動）の時間を確保したい」という声がよく聞かれます。精神的に不安定になりやすい思春期の中学生にとって、運動時間の確保は、ストレス発散や精神の安定に繋がるとともに、運動実施の二極化傾向が顕著に現れる中学生期の対応策になります。しかし、体育が運動欲求を満たすだけの時間であれば、休み時間や放課後に行う自主的な運動遊びやスポーツ活動と変わらなくなってしまう。運動領域にはゲーム性の高い種目もあり、内容によっては放っておいても生徒は意欲的に活動します。しかし、座学は興味深い学習内容（知識）と適切な教授法がなければ、生徒から意欲を引き出すことはできません。実技の授業の充

実と併せて、「面白くてためになる」体育理論の授業を行うことが体育の負のイメージを払拭し、教育的価値の高い知的な教科・分野であることを認識させるきっかけになるのではないのでしょうか。

2 体育理論の授業で何をねらうのか

現代スポーツは、絶えず変化する社会の影響を受けて変わり続けています。体育理論は、そのようなスポーツと生涯にわたって積極的にかかわる上で必要となる科学的な知識を身に付けることが求められる領域です。体育では運動領域（実技）でも知識を扱いますが、体育理論で扱う知識は、各運動領域に共通する内容や、分散せずにまとまりで行う方が効果的な内容を精選したものです。知識には、身体知（体が知っていること＝暗黙知）と形式知（言語化できる（される）知識）に分ける考え方がありますが、体育は「身体知→形式知」、「形式知→身体知」という双方向のプロセスを経て、実生活に活かせる生きた知識の獲得をめざしています。すなわち、各運動領域と体育理論、技能と知識を相互に関連させ、実際の生活や将来の生活に活かすようにすることが大切です。この度実施となった学習指導要領における体育理論の授業では、知識の確実な定着を図りつつ、これまでと同様に運動領域との関連を図ることが求められています。しかし、この「関連」という表現は、これまで「単元で行わなくても良い」という解釈を生んでいました。こうしたことから中学校では各学年3単位時間以上という数字が学習指導要領に示されました。しかし、これは保健体育科の年間総単位時間数の約3%にすぎず、この3%に中学生の時期に学ぶべき生涯にわたる豊かなスポーツライフ実現の土台となる知識を厳選し、学習の内容としているのです。すなわち、生徒たちがこれらの知識を学ぶことで、今後の人生を、運動やスポーツを通じてより豊かにするとともに、スポーツ文化の創造・発展の担い手になってほしいのです。

3 | 各学年における体育理論の授業づくり

第1学年は、座学で行う体育との初めての出会いです。知的好奇心をくすぐり「座学の体育も面白い」と思わせることが重要です。主な学習のねらいは、運動やスポーツがいかに多様であり、魅力あるものかを理解させることです。スポーツの多様な楽しみ方を、実際にスポーツを生活に取り入れている人の具体例を挙げたり、自己の体験を振り返ったりして、運動やスポーツが豊かな生活を営む上で有用であることを、実感をもって理解させます。スポーツの学び方については、運動領域や運動部活動などに活かすことを念頭に授業を進め、「学んだことを今後の生活に活かしたい」と思わせたいところです。

第2学年は、運動やスポーツの意義や効果などについて理解させることが主な学習のねらいです。運動やスポーツが心身の発達に及ぼす様々な効果を学ぶことで、スポーツの価値観を高めていきます。運動やスポーツが人間の生活に不可欠である科学的な根拠に触れたり、これまでの運動やスポーツの経験で得たことをまとめたりしながら、スポーツの実施意欲を高めていきます。安全確保については、統計資料や実際の事故事例などを紹介したり、対処法を考えさせながら、事故防止の要点を整理させます。

第3学年は、文化としてのスポーツの意義を理解させることが主な学習のねらいです。今もっているスポーツへの興味を、身近な事柄から日本から世界へと徐々に視野を広げられるようにします。具体的には生徒にとって身近で興味や関心が高いワールドカップやオリンピックなどの国際大会を学習の素材にして、運動やスポーツの社会的な意味や文化的な価値を実感させます。さらに、体育・スポーツは万人に開かれるべき、全人類の権利であることを示した、ユネスコの「体育・スポーツ憲章」や日本の「スポーツ基本法」などにも触れ、「人類の財産であるスポーツをもっと深く学んでみたい!」と思わせて、高校に引き継ぎます。高校では理想や価値だけでなく、スポーツを取り巻く様々な諸問題を学ぶことになります。中学校体育理論の授業づくりの際には、高校の指導内容もぜひ参考にしてください。

4 | 体育理論の指導の工夫・留意点

体育理論の基本的な授業の進め方は、同じように

座学で行われる保健分野（以下、保健）の進め方が参考になります。保健では、生涯を通じて健康を保持増進する実践力の育成をめざして教授方法を選択しますが、体育では生涯を通じた豊かなスポーツライフにつながる運動実践をめざして教授方法を選択します。体育理論もこの考え方に則り、今後の生活に運動やスポーツを取り入れる動機付けになるよう「面白くてためになる」授業を展開する必要があります。ここではそのような体育理論をめざす上での工夫や留意点を考えてみたいと思います。

一つ目は「教材」です。教科書や指導書に掲載されている資料の他、文科省、厚労省、JOCのホームページなど、インターネットを通じて様々な資料が入手可能です。統計資料、写真、新聞記事などは最新のものがあれば適宜活用しましょう。パソコン教室があれば、インターネットを利用した調べ学習も可能ですが、事前に検索ワードやURLなどを示して迷走しないようにする必要があります。また、視聴覚機器で映像や画像を見せることは、リアリティや感動のある印象深い授業づくりに役立ちます。

二つ目は「発問」です。発問は授業の始めに興味・関心を引き出したり、授業中に思考を促す重要な手法です。ベテランの先生は、発問によって授業を上手くコントロールし、生徒の思考を望ましい方向に導きます。そして、時には緊張感を与えたり思考を揺さぶって、授業に望ましい変化をもたらします。しかし多すぎる誘導的発問は、教師が支配的になり、主体的な学習の妨げとなることがあります。授業の核心に迫る発問を精選し、生徒の回答を拾いながらキーワードを整理しましょう（表参照）。

三つ目は、「生徒の主体的な学習活動の導入」です。保健で多くの実践例があるブレインストーミング、キーワードの分類、グループ討議などの参加型学習は体育理論でも活用できます。ただし、限られた時間数なので、習得と活用（思考・判断・表現）のバランスを考え、無理のない導入が大切です。

四つ目に「ねらいと学習内容と活動の一貫性」です。これがないと、単なる知識のつまみ食いとなり、「この先生は何が言いたかったのか?」となってしまいます。落とし所（ねらい）が明確でストーリーのある、体系的なフルコース型の授業設計が大切です。自作のワークシートは落とし所に導くのに有効です。また、学習指導要領やその解説で、指導内容

を確認しておきましょう。

「段取り 8 割」という言葉があるように、授業の良し悪しは授業準備でほぼ勝負が決まります。単元のねらい・指導内容を確認し、板書や発問の計画を立て、必要な教材を作成・収集する、これは大変手間のかかる作業ですが、指導計画の立案は、授業リハーサルをすることにもなりますので、生徒の反応

を想像しながら楽しく行いたいものです。豊かなスポーツライフの土台づくりとなるような「面白くてためになる」体育理論の授業づくりに、ぜひ先生方も楽しくチャレンジしていただきたいと思います。

■参考文献

・佐藤・友添編著、楽しい体育理論の授業をつくろう、大修館書店、2011

表 中学校「体育理論」の学習キーワード、発問、活動指示等の例

まとまり・単元	学習のキーワード	学習内容の核心に迫る「発問」「活動指示」の例	使用教材の例
運動やスポーツの必要性と楽しさ 運動やスポーツの多様性 (第1学年)	運動やスポーツの必要性と楽しさ	○スポーツには、どのような楽しみ方があるだろうか？ ○スポーツは、どのような目的で行われているのだろうか？ ○様々なスポーツ種目を挙げ、楽しさや目的で分けてみよう。 ○スポーツのとらえ方はどのように変化してきたのだろうか？ ○スポーツのとらえ方の変化には、何が影響してきたのだろうか？	・スポーツの様々な楽しみ方の画像や映像 ・社会変化とスポーツのとらえ方の変化の表 など
	運動やスポーツへの多様なかわり方	○スポーツのかかわり方を、身近な人の例を参考にしてみよう。 ○スポーツのかかわり方を挙げて分類し、見出しをつけてみよう。 ○する・見る・支えるなどの多様なかわり方の具体例を挙げてみよう。 ○これからのスポーツのかかわり方を、自分の生活に当てはめて考えてみよう。	・「する」、「見る」、「支える」をイメージできる写真や映像 など
	運動やスポーツの学び方	○技術、戦術、作戦とは何か？身近なスポーツを例に考えてみよう。 ○図の動き（技術等）を何というか？また、それらはどんな場面で使われるか？ ○フォーメーションなど、技術を選択する際の方針を総称してなんと呼ぶか？ ○球技大会で、相手チームに勝つために考えた方法は？ ○技術を身につける際の手順とは？	・技術・戦術・作戦を整理する図や表 ・経験のあるスポーツの技術・戦術の図、写真、映像 など
運動やスポーツが心身の発達に与える影響と安全(第2学年)	運動やスポーツが心身に及ぼす効果	○運動やスポーツを行うと、体にどのような変化があるだろうか？ ○運動やスポーツを行うと、心にどのような変化があるだろうか？ ○運動やスポーツを行うと、心身に変化が現れるのはなぜだろうか？保健で学んだ心と体の関係についての知識をもとに考えてみよう。 ○運動やスポーツの効果を受け、身体的効果と心理的效果に分類してみよう。 ○運動やスポーツの効果を受け、運動やスポーツを、生活にどのように取り入れていくか？	・身体発達（筋肉・体格）をイメージする写真 ・ストレス発散や自己実現をイメージする写真 など
	運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果	○運動やスポーツを行う際に求められるものにはどんなことがあるだろうか？ ○個人プレイを大事にするチームと、チームプレイを大事にするチームの違いを挙げてみよう。 ○仲間と楽しく運動やスポーツを行うための条件や工夫を考えてみよう。 ○運動やスポーツで培われた社会性は、日常生活のどのような場面で活かせると思うか？	・スポーツ中のコミュニケーションや励まし合い、称賛の場面の写真や映像 など
	安全な運動やスポーツの行い方	○運動やスポーツ中に、どのような事故にあったことがあるか？また、その原因は何であったか？ ○安全に運動やスポーツを行うために必要なことを挙げてみよう。 ○事故の具体例から、事故の原因・対処・防止策について考えてみよう。 ○野外での活動で留意すべきことにはどのようなことがあるだろうか？	・スポーツ事故の統計 ・学校事故統計 ・事故事例 ・水分補給効果のグラフ など
文化としてのスポーツの意義(第3学年)	現代生活におけるスポーツの文化的意義	○スポーツを行うことで、人生にもたらされるものとは？ ○様々な運動・スポーツとその実施目的を挙げ、それらを「健やかな心身」「豊かな交流」「自己開発」の3つに分類してみよう。 ○人生を豊かにするために、将来どのようにスポーツを取り入れたいか？ ○ユネスコの国際憲章を参考に、スポーツの文化的意義について考えてみよう。	・ユネスコの国際憲章 ・スポーツ基本法 ・ライフステージ、スタイルに応じたスポーツ実践の映像 など
	国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割	○オリンピック大会などの大きなスポーツ競技大会が果たしている役割とは？ ○国際スポーツ大会の映像を見て感じたスポーツの魅力を挙げてみよう。 ○魅力を3つのグループに分類し、タイトルを付けてみよう。 ○国際的なスポーツ大会は、国際親善や世界平和にどのように役立っているか？	・オリンピックの映像 など
	人々を結び付けるスポーツの文化的働き	○言葉の通じない国の人と、どんなことをして友達になろうとするか？ ○外国の人と一緒にスポーツを楽しむには、どうすればよいのか？ ○障害を持った人と、持たない人が一緒にスポーツを楽しむための工夫とは？ ○男女一緒にスポーツを楽しむためにはどうすればよいのか？ ○「スポーツは○○の違いを超えて人々を結びつける」の○○には何が入るか？	・オリンピック・パラリンピックの映像 ・スポーツを通じた様々な交流・支援活動の写真や映像 など

中学保健体育科ニュース 2012年 No.1 (通算 4号)

2012年 6月15日発行

●編集 大修館書店編集部

●発行所 株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

TEL 03-3868-2298 (編集部) / FAX 03-3868-2645

【出版情報】 <http://www.taishukan.co.jp>

●印刷・製本 広研印刷株式会社